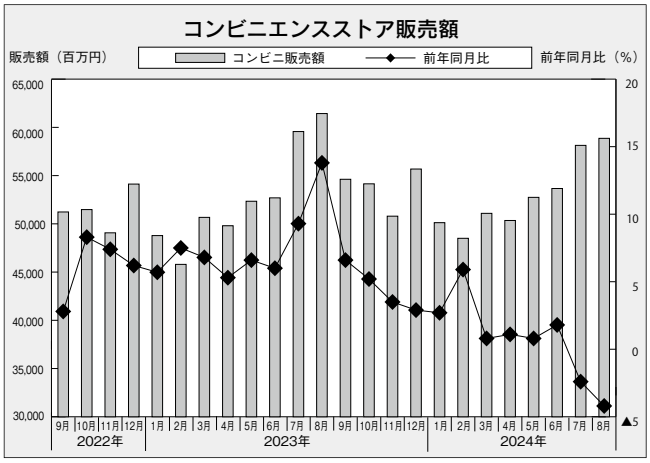
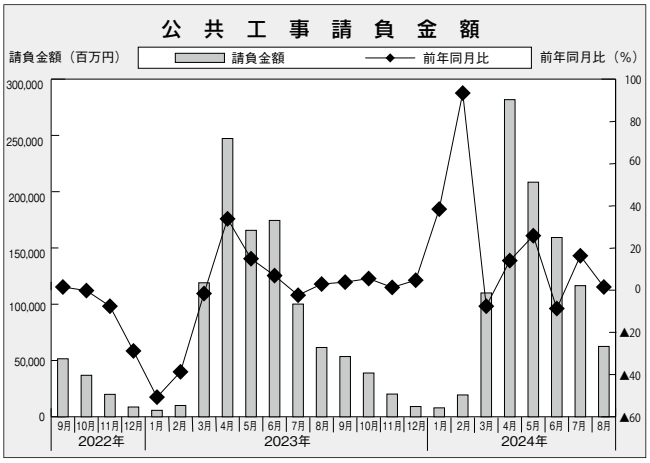
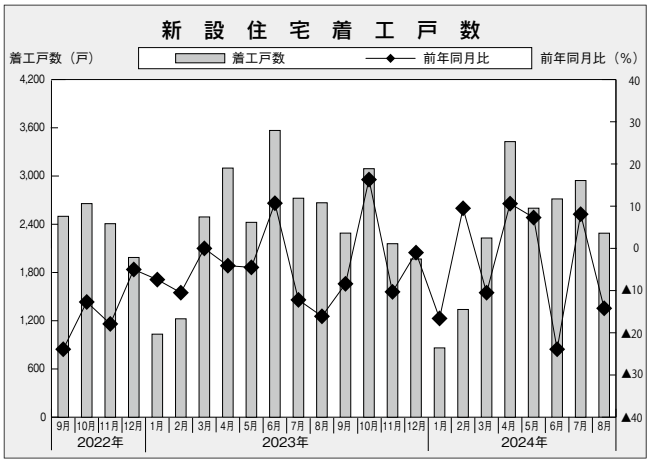
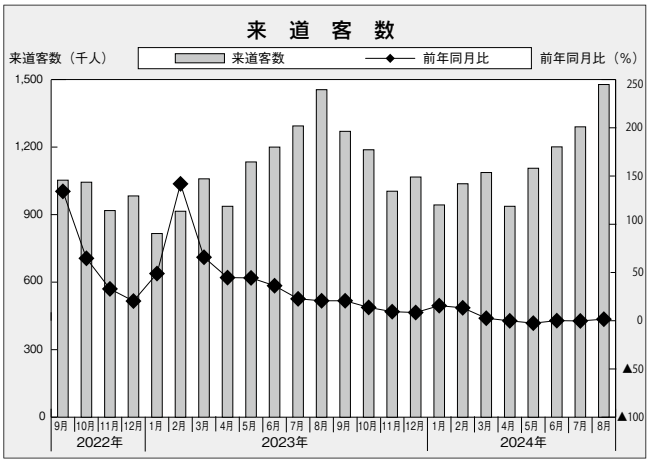
北海道の主要経済指標

出典：経済産業省 北海道経済産業局 管内経済概況 主要経済指標









北海道の主要経済指標		コンビニ販売額		公共工事請負額		新設住宅着工戸数		来道客数	
		販売額（百万円）	前年同月比	請負額（百万円）	前年同月比	着工戸数（戸）	前年同月比	来道客数（千人）	前年同月比
2022年	9月	51,231	2.8	51,534	1.5	2,499	▲ 23.9	1,053	134.1
	10月	51,478	8.3	36,857	▲ 0.2	2,657	▲ 12.7	1,044	64.7
	11月	49,069	7.4	19,921	▲ 7.6	2,407	▲ 17.9	918	33.0
	12月	54,122	6.2	8,682	▲ 28.8	1,987	▲ 5.0	983	20.4
2023年	1月	48,782	5.7	5,726	▲ 50.7	1,033	▲ 7.4	816	48.9
	2月	45,798	7.5	10,031	▲ 38.7	1,224	▲ 10.5	915	141.9
	3月	50,671	6.8	119,060	▲ 1.6	2,491	0.0	1,059	65.8
	4月	49,802	5.3	247,252	33.8	3,099	▲ 4.1	937	44.7
	5月	52,342	6.6	165,658	14.9	2,424	▲ 4.5	1,134	44.4
	6月	52,694	6.0	174,462	6.9	3,567	10.7	1,200	36.3
	7月	59,567	9.3	100,138	▲ 2.4	2,724	▲ 12.2	1,294	22.7
	8月	61,432	13.8	61,565	2.9	2,667	▲ 16.1	1,455	20.7
	9月	54,619	6.6	53,509	3.8	2,290	▲ 8.4	1,270	20.7
	10月	54,148	5.2	38,890	5.5	3,091	16.3	1,188	13.8
	11月	50,795	3.5	20,175	1.3	2,158	▲ 10.3	1,004	9.4
	12月	55,682	2.9	9,093	4.7	1,968	▲ 1.0	1,067	8.5
2024年	1月	50,120	2.7	7,927	38.4	862	▲ 16.6	943	15.6
	2月	48,501	5.9	19,396	93.4	1,340	9.5	1,037	13.4
	3月	51,088	0.8	110,023	▲ 7.6	2,229	▲ 10.5	1,087	2.6
	4月	50,348	1.1	281,773	14.0	3,428	10.6	937	▲ 0.1
	5月	52,746	0.8	208,449	25.8	2,600	7.3	1,106	▲ 2.5
	6月	53,663	1.8	159,292	▲ 8.7	2,715	▲ 23.9	1,201	0.1
	7月	58,134	▲ 2.4	116,498	16.3	2,944	8.1	1,290	▲ 0.2
	8月	58,864	▲ 4.2	62,509	1.5	2,289	▲ 14.2	1,478	1.6

特集

拡大するアジア新興国経済

今号の特集は、信金中央金庫 地域・中小企業研究所発行の経済金融情報 №2024-2（2024.9.6発行）より、拡大するアジア新興国経済 - 日本人と同等の購買力を有する高所得層がアジア新興国にも存在 - について抜粋転載してご紹介いたします。

信金中央金庫 地域・中小企業研究所　上席主任研究員　鹿庭　雄介　氏

１．アジア新興国の経済規模

ＩＭＦ（国際通貨基金）が公表している「World Economic Outlook」のデータを基に主要国・地域別のＧＤＰシェアをみると、アジア新興国の経済規模が拡大を続けていることが確認できる。00年初めに５％以下であった中国のシェアは直近23年に16.9％まで上昇し、日本やユーロ圏を追い抜き世界第２位の経済大国となっている。また、中国以外のアジア新興国も23年のシェアは7.2％と存在感を高めてきている。これにより、中国を含めたアジア新興国の23年シェアは24.0％となり、世界最大の経済大国である米国（26.1％）に肩を並べる規模にまで成長している。そして、ＩＭＦの予測最終年である29年には、中国を含めたアジア新興国のシェアが26.9％にまで高まり、米国（25.1％）を上回ると見込まれている。

アジア新興国の中で、経済規模の拡大をけん引している国はどこか。アジア新興国30か国のうち経済規模の大きい８か国（中国・インド・インドネシア・タイ・バングラデシュ・ベトナム・フィリピン・マレーシア、以下、「アジア主要新興国」という。）の13年、23年、29年時点（ＩＭＦ予測）の名目ＧＤＰ（市場為替レート）を日本と比較してみると、中国の経済規模が群を抜いて大きい。13年の段階で中国の名目ＧＤＰは既に日本の２倍弱もあり、それが足元23年には４倍となり、さらに29年には５倍程度まで差が開くと予測されている。中国に次ぐ経済規模を有するのがインドである。13年時点では日本の３分の１程度であったが、23年には８割を超える水準まで拡大している。ＩＭＦでは25年に日本を上回り、29年には1.3倍に達すると予測している。残る６か国は、中国とインドに比べれば経済規模は小さいものの、高い経済成長率を背景に年々日本との差を縮めている。ＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合）に属する５か国（インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア）の名目ＧＤＰの合計は、13年時点で日本の４割程度であったものが、23年には７割を超え、29年にはほぼ同水準になるとみられている。また、バングラデシュは他国と比べて速いペースで経済規模が拡大している。13年に８か国の中で最も小さかった名目ＧＤＰは、23年にはマレーシアとベトナム、フィリピンを抜き５位に浮上している。さらに29年までにタイを上回り、インドネシアに次ぐアジア主要新興国第４位の経済規模になると予測されている。この結果、アジア主要新興国全体では、13年に日本の2.7 倍程度であった名目ＧＤＰが、23年に６倍弱まで拡大し、29年には７倍を超える水準に達すると見通されている。

２．購買力平価ベースでみた名目ＧＤＰと一人あたりＧＤＰ

名目ＧＤＰを国際比較する際には、市場為替レート（外国為替市場の実勢レート）を用いて、米ドル建てに換算するケースが多い。ただ、市場為替レートは、資本市場における通貨への需給により決定されるものであり、国ごとの価格水準の違いを必ずしも反映しない。こうした状況に鑑み、各種データを国際比較する時には、購買力平価（国と国との間で違う物価水準の差を取り除くことにより、国ごとに異なる通貨の購買力を等しくすることを狙った通貨交換比率）を用いて換算することがある。購買力平価ベースの方が、実質的な経済規模、生活水準等を正確かつ公平に比較するには優れていると指摘する向きもある。各国の名目ＧＤＰを購買力平価ベースで換算したものでみると、23 年の経済規模が中国で日本の５倍（市場為替レートでは４倍）まで拡大するほか、インドも２倍超（同８割超）と日本を大きく上回っている。残る６か国との差も軒並み縮まり、アジア主要新興国全体の名目ＧＤＰは23年時点で日本の８倍超となり（同６倍弱）、29年には11倍超（同７倍超）まで膨らむ予測となる。日本と物価水準の差（日本＞アジア主要新興国）を反映した結果、購買力平価ベースで換算した名目ＧＤＰはアジア主要新興国で拡大幅が大きくなっている。他方、アジア主要新興国の名目ＧＤＰ（購買力平価ベース）をそれぞれの人口で除した一人あたりＧＤＰをみると、23年の時点で一国全体の経済規模が日本を大きく上回る中国やインドでも日本の半分以下にとどまる。一人あたりＧＤＰが最も大きいマレーシアでも日本の７割程度となっている。どの国も経済成長とともに先行き一人あたりＧＤＰの拡大が見込まれているものの、29年に日本を追い越す国はないと予想されている。

３．所得階層別にみた一人あたりＧＤＰ

もっとも、一人あたりＧＤＰは各国の国民の平均的な姿を示しているに過ぎず、実際には高額な商品やサービスを購入できる高所得層がどの国にも一定割合存在すると考えるのが妥当であろう。この点を踏まえ、世界銀行

が発表している５分位階級所得割合（人口を所得が少ない順に並べて５等分した際に、各階級における所得の和が全体の所得に占める割合）のデータを基に、所得階層ごとの一人あたりＧＤＰ（購買力平価ベース）を試算してみた。23年の状況をみると、マレーシアでは最も所得水準の高い上位層が９万ドル近くに達しており、国民の２割が日本の中上位層と上位層の間の水準にある。また、人口の多い中国では、５万ドル台の上位層が2.8億人に達しており、日本の中位層を超える水準にある国民が日本の総人口の２倍以上も存在する試算結果となった。その他の多くのアジア主要新興国でも、上位層は日本の下位層から中位層のレベルに達している。そして、先行きアジア主要新興国の所得層は高い経済成長率を追い風に徐々に日本の所得水準に近づいてくる見通しである。ＩＭＦの予測に基づくと、29年までに新たにマレーシアの中上位層やインドネシアの上位層が日本の中位層の所得水準を超えてくると試算される。日本の所得階層別にアジア主要新興国の人口を振り分けると、23年時点で既に日本の中位層以上の所得水準にあるアジア主要新興国の人口は３億人近くに達しており、その大部分を中国の上位層が占めている。また、下位層と中下位層の間には10億人以上の人々が存在し、中国の中上位層、中位層に加えてインドの上位層やインドネシアの中上位層が押し上げている。そして、先行き29 年には日本の中下位層から中位層の間に位置する人口が増えて厚みが増すと同時に、１万ドル以下の低所得者層が23 年の15億人弱から８億人まで減少すると見込まれている。

さらにアジア主要新興国の上位10％の所得層に絞って状況をみると、23年の時点では、中上位層から上位層の間に中国が、下位層から中下位層の間にインドが中心となって大きな山を形成しているのが分かる。これが29年になると、アジア主要新興国の上位層の所得水準がさらに切り上がることで、日本の中下位層以上に匹敵する所得水準の人々が日本の人口の３倍程度も存在する見込みとなっている。

４．アジア主要新興国における高所得者層の消費行動

これまでみてきた通り、アジア主要新興国では経済成長に足取りを合わせる形で、先行き国民の所得水準が高まっていくと見込まれる。この点を踏まえ、以下、各国の消費マーケットを食料、住居、光熱・水道といった用途別に試算してみた。なお、各所得階層の支出額や用途別の支出構成比などは国ごとに異なろうが、該当するデータが公表されていないケースも多い。このため粗い前提とはなるが、いずれの国でも総務省「家計調査」から得られる23年時点の日本の家計の状況と同様であると仮定した。23年時点の日本の状況（所得階層別、用途別の世帯あたり支出額）は、所得階層が上がるにつれて支出額も多くなっているが、なかでも教育は上位層と下位層の差が20倍以上に達している。これに続くのが被服及び履物や教養娯楽などであり、所得に余裕がある層ほど支出を増やす傾向が強い。他方、光熱・水道や保健医療、住居、食料などは下位層と上位層で支出額がそれほど変わらない。日常生活を最低限維持するために必要な商品・サービスが多く含まれていることが影響しているとみられる。日本の支出額の状況を基に、アジア主要新興国において用途別の消費支出がどの程度見込めるのかを試算した。これによると、中国は既にどの用途でも支出額は日本の数倍に達していると見込まれる。また、インドも教育以外は支出額が日本を上回っていると試算される。これら２か国に残りの６か国を加えたアジア主要新興国全体では、光熱・水道や保健医療、住居、食料などの支出額が大きくなっている。これはアジア主要新興国では、多くの国民が日本の所得階層の中位層以下に該当していることが影響しており、生活必需品を中心に巨大な消費マーケットが存在していると推測できよう。半面、教育や被服及び履物、交通・通信、教養娯楽などへの支出額は相対的に小さいと試算され、所得水準の低さゆえに関連分野の消費マーケットは限られているとみられる。もっとも、５年先の29年には一人あたりＧＤＰの拡大と所得水準の向上に伴って、アジア主要新興国では生活必需品以外の消費マーケットも拡大するとみられる。中国、インドに続き、インドネシアでも光熱・水道や住居、保健医療などを中心に日本を上回る市場規模になると予想される。

これまでアジア新興国はその経済規模や一人あたりＧＤＰが小さいことを理由に、日本と同等の商品やサービスの購入は難しいという見方があった。ただ、生活必需品を中心に市場は十分に形成されているとみられ、今後も人口増加と経済成長に後押しされる形でより高価な商品・サービスの購入が増えてくると考えられる。日本市場の拡大が見込みにくい中において、日本企業にはアジア新興国のマーケットを開拓していくことがより一層求められよう。また、アジア新興国には一人あたりＧＤＰが１万ドル以下といった低所得者もまだまだ多い。これらの所得層がいつか日本の所得水準に近づいてくることを見越して、今のうちからブランドの確立を進めるなどの種まきを行うことも求められよう。

以 上

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがいまして、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

お取引先企業のご紹介コーナー

当金庫のお取引先企業様をご紹介する**「誌上ビジネスマッチング」**のコーナーです。
是非、皆様の**販路拡大やビジネスのご連携に**お役立て下さい。
お問合せは、当金庫または直接下記掲載企業様へご連絡下さい。

お弁当のこすもす
Cosmoslunch**

〒053-0832
苫小牧市桜木町3-15-15
代表　野崎　智恵子

当社お弁当のこすもすは、仕出し弁当の事業を運営し、主に６店舗ある売店への卸販売、会社等のイベント弁当、会議弁当、町内会イベント弁当、個人顧客への弁当販売を行っています。

また、２年前にバイキングカフェをオープン。コンセプトは小さな子供からお年寄りの方までが集う憩いのバイキングカフェ。連日たくさんのお客様でにぎわっています。

両事業はご予約も承ります。是非一度ご来店くださいませ。

＜主要取扱商品＞
お弁当の製造販売・バイキングカフェ

【連絡先】TEL：0144-72-6465　FAX：0144-61-1881
E-mail：cosmos@cosmoslunch.com
野崎　　研　様

株式会社 千野米穀店

〒065-0032
札幌市東区北32条東7丁目3-24
(担当部署：北32条店)

当社では、『お米の美味しさを多くの人に伝え、幸せな食生活を創造する』を企業理念に、北海道米を中心とした数多くの種類を取り揃え、安心安全な美味しいお米を皆様へお届けしております！

一般的な「米屋」との差別化を図るべく「有機栽培米」や「アレルギーに配慮したお米」など顧客のニーズに合った商品を農家と連携し提供しております！

You tube「お米炊飯研究所/Chinobeikokuten tv」での活動も行っており、美味しくなる「お米の研ぎ方」などの動画を通じて、お米の美味しさと楽しさを多くの人に伝える取り組みを行っていますので、ぜひチェックしてみてください！

当社の美味しいお米をぜひ召し上がってみてください！！

〈札幌市内店舗〉
- **北32条店：札幌市東区北32条東7丁目3-24**
- **大丸札幌店：札幌市中央区北５条西４丁目７番地　大丸松屋百貨店　札幌店地下１F**
- **円山精米所：札幌市中央区南１条西27丁目1-1　マルヤマクラス1F**

大丸札幌店

＜主要取扱商品＞
- **米穀搗精及び小売・業務用米卸及びこれらに関わる関連商品全般の販売**
- **アレルギーに配慮したお米及び関連商品の販売**

【連絡先】TEL：011-733-8158　FAX：011-788-5653
E-mail：chino@chino-grain.co.jp
代表 ： 徳永　善也　様

HP：https://chino-grain.co.jp

最近の管内のトピックス －新聞報道より－

※9年連続30%越え　苫小牧市のリサイクル率

苫小牧市がまとめた2023年度のごみのリサイクル率は、30.6%で、前年度から1.4ポイント減少したものの、９年連続で30%台をキープした。人口10万人以上の道内９市でのトップも14年度から10年連続で達成し、ごみの減量傾向とともに高水準のリサイクル率が保たれている。－中略－　家庭ごみが13年7月に有料化されて以降、1日1人当たりの排出量はおおむね550グラム前後で推移していたが、23年度は537グラムまで減り、過去最少を7年ぶりに更新した。－後略－

（８月26日苫小牧民報社より－以下同じ）

※市上下水道部がインスタ開設　おいしい水をアピール

苫小牧市上下水道部が上下水道事業を紹介するＳＮＳのインスタグラムを開設した。市のペットボトル入り水道水「とまチョップ水」(500ミリリットル、100円)の関連情報や上下水道事業を中心に発信し、苫小牧のおいしい水をアピールする。同部ではこれまでも市の公式ホームページやラインで情報を発信。若い層をターゲットに事業を知ってもらおうと、2日のとまこまい港まつり開幕に合わせてインスタグラムを開設した。同部の既存ラインとも連携させ、情報を幅広いユーザーに届けていく。

同部は「新規のフォロワー獲得につながるよう、興味を引く投稿をしていけたら」と話している。－後略－　（８月28日）

※百縁商店街に長蛇の列　「まちフェス」中心街に活気

苫小牧市の中心市街地などで31日、にぎわい創出を目指す「まちフェス―夏―」が始まった。この日は「とまこまい百縁商店街」「うまいっしょ！ とまこまい」「まち市」「野外音楽フェスティバル活性の火」の4イベントが開かれ、買い物を楽しむ市民の姿などが広がった。9月1日は引き続き活性の火と「とまこまいまちなかイベントひろば」が開かれる。このうち「とまこまい百縁商店街」は31日午前、苫小牧市商店街振興組合連合会が主催し、表町や王子町、錦町などの31店で開かれた。「中心街全体が100円ショップに大変身」とうたい、印鑑や眼鏡ケース、純銀小判1グラムなどの商品やサービスを100円で提供した。－後略－　（８月31日）

※音楽やお笑いライブに熱狂　ミライフェスト2日間で2万3000人来場

音楽やアート、食などをテーマにした複合型イベント「TOMAKOMAI MIRAI FEST（トマコマイミライフェスト）2024」が7、8の両日、苫小牧港・西港北埠頭キラキラ公園で開かれた。2日間ともに好天に恵まれ、入場者数は初日が約8000人、2日目が約1万5000人の計約2万3000人で、昨年を約4000人上回った。

8日は有料エリアの音楽ライブにゴールデンボンバーや氣志團、湘南乃風、など有名アーティストが登場し、テントの外まであふれた観客がタオルを振るなどして盛り上がった。別のステージではオズワイルドやトレンディエンジェルなどお笑い芸人、アニメソングで人気の歌手影山ヒロノブさんらが会場を沸かせた。また、無料エリアでは企業のＰＲブースなどが並ぶＧＸ（グリーントランスフォーメーション）パークを設けた他、ダンスコンテストなども開かれ、訪れた市民が思い思いに楽しんだ。－後略－　（９月９日）

※ＯＳＫ日本歌劇団 天輝レオさん凱旋公演　華麗な舞に酔いしれる

苫小牧市出身でＯＳＫ日本歌劇団（大阪市）に所属する天輝レオさんが主演する、同歌劇団の苫小牧市公演「OSK Revue Show(レビュー・ショー) in 苫小牧」が21，22両日、市民会館大ホールで開かれた。2日間の3公演で市民ら約2000人が訪れ、天輝さんらの華やかな舞台に酔いしれた。

同歌劇団、苫小牧観光協会が共催。主演の天輝さんは、音楽に合わせた美しい歌声や切れのあるダンス、歌劇、剣舞など役割は多岐にわたった。光源氏役で平安時代の世界観も演じた他、昨秋のＮＨＫ連続テレビ小説の放送開始以降、再び脚光を浴びた「東京ブギウギ」などを届け、観客を存分に楽しませた。－後略－　（９月23日）

INFORMATION

とましん結婚相談所「ＬＬＢ会」

とましん結婚相談所「ＬＬＢ会」事務局
苫小牧市表町３丁目１番６号　　苫小牧信用金庫本店７階

電話　0144−56−5026
【平日　9：00〜17：30】

お気軽に、お問い合わせください！

■会員資格

１．苫小牧信用金庫の営業地域にお住まいの方
２．法的にも実生活上においても独身の方
３．結婚したいという明確な意思のある方
４．反社会的勢力でないこと
※ 会員の有効期間は入会日より３年間です
（希望により延長も可能です）

■入会にあたりご提出いただくもの

１．申込書類
（当会所定の入会申込書、プロフィール、誓約書）
２．戸籍謄本または独身証明書
３．最終学歴の卒業証書（任意）
４．収入証明書（源泉徴収票など）
５．申込書貼付用顔写真１枚（縦横５㎝程度）
６．お相手へのご紹介用写真２カット
（Ｌ判サイズ、１枚は全身が写っているもの）
７．入会預り金　１０,０００円
（退会時には全額返却いたします）

■活動実績

（令和６年9月30日現在）

入会者数	男性	397 名
	女性	401 名
	合計	798 名
お見合回数		925 回
結婚又は婚約中		72 組
子供の誕生		23 名

■ＬＬＢ会のシステム

１．申込書に記載された「お相手の希望」に沿った方の「プロフィール及び写真」を見ていただきます。
２．お会いしてみたい方がいた場合、事務局よりお相手の方に連絡し了解がとれれば、お見合いをしていただきます。（お見合い会場は苫小牧信用金庫本店内）
３．お見合い後に、交際希望の有無を確認させていただきます。
４．双方が交際を希望した場合、３か月の交際期間を設けます。交際期間の中で「結婚を前提に交際を継続」または「交際を辞退」の結論を出していただきます。

とましん景況レポート No.160
令和６年11月発行

発行／苫小牧信用金庫　編集／業務推進部
〒053-8654　苫小牧市表町３丁目１番６号
TEL(0144)56-5026 FAX(0144)31-2341

※本レポートは調査時点における情報提供を目的としています。したがって投資等についてはご自身の判断によってください。また、本レポート掲載資料は、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。